城上幼稚園だより すくすく

「山と川と人とつながるたくましい子ども」

令和６年６月２０日（月）発行　　℡３０－２１５５

「見える学力と見えない学力」

園　長　　米丸　寛之

「これは○○しよう」「それは○○したらいいよ」、これは、園児達が園庭での砂遊びの際、水がうまく流れなかった時や新しい水路を作ろうとした時に、お互いにかけあっていた言葉です。

学力には「見える学力」と「見えない学力」があります。見える学力は、テストや通知表等の数値で表せる学力です。見えない学力は、根気・挑戦する気持ち・協力できる力・自分を振り返る力・情報を集める力・学んだことや経験を生かす力など、全ての子どもに等しく必要な、何かがおこった時に自分の頭で考え行動できる力であり、見える力を支える土台となるものです。

見えない力は、幼少期から育んでいくことが大切であるとも言われますが、冒頭でお伝えした園児達の姿は、正にこの力を育んでいくための場面でした。世の中が目まぐるしく変化していく中でも、課題解決に向けて何をどう考えていくのかの思考を存分に働かせていくことや、粘り強く納得いくまで取り組んでいくことができる時間や場面をより多く子どもに作ってあげることが、とても大切なことであると思います。

砂場で遊ぶ子どもたちは、互いに協力し、水がうまく流れるよう素晴らしい水路を作り上げました。ファイブスター、実に頼もしいです。

「親子20分間読書」運動～本がひらく　わたしの未来～

５月下旬、令和６年４月に川内文化ホール跡地にオープンした九州電力薩摩川内複合施設「センノオト」に行きました。外には天然芝の広場があって走り回っている子どもがいたり、スタバにあるオープンテラスでコーヒーを飲みながら本を読んでいる人がいたり、キッズスペースで工作をしている家族がいたり、老若男女問わず、多くの利用者が休日を満喫していました。

圧倒されたのは、広いスペースに設置された本の多さと、ゆっくりとくつろげる大きなソファー、キッズスペースのつくりでした。「読書」により育まれていく力や「親子20分間読書」による親子の絆づくり等については、先月号でお伝えをしたところですが、たまには、センノオトのような場所へ行って雰囲気を変えてみることも、読書に親しんでいくことや、親子の絆づくりにつながっていくのではないかと思いました。